

アナログプレイヤーの比較試聴(28)

—モーツアルトを聴く(28)—

1. 始めに

前報(27)に引き続き、アナログプレイヤー3機種と比較試聴を実施していきます。

2. アナログプレイヤーの比較試聴方法

アナログプレイヤー3機種の試聴経路は、ThorensTD124とGrrad401の再生経路を変更した前報(18)と同様です。

音源は、モーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回はピアノ協奏曲です。

EMI EAA-80151

モーツアルト ピアノ協奏曲第21番ハ短調

ピアノ協奏曲第18番変ロ長調

ダニエル・バレンボイム (ピアノ)

ダニエル・バレンボイム指揮イギリス室内管弦楽団

LONDON SLA 106B

モーツアルト ピアノ協奏曲第21番ハ短調

ピアノ協奏曲第12番イ長調

ラドゥ・ルプー (ピアノ)

ユリ・シーゲル指揮イギリス室内管弦楽団

今回も、各プレイヤーにターンテーブルアキュライザーTACU-1を使用していきます。また、LINN LP-12の再生系では、ダンパーフレークの導入(1)で報告したダンパーフレークを2ヶ所に適用しています。さらに、ダンパーフレークの導入(3)で報告したTruPhaseから300Bアンプに介在させたバランスアナログアキュライザーの出力側にもパーフレークを適用しています。

3. アナログプレイヤーの比較試聴結果

EMI盤は、ZANDEN Model120経由のLINN LP-12とThorensTD124では、EMI、逆相、第4時定数Lowで聴いていきます。

LONDON盤は、ZANDEN Model120経由のLINN LP-12とThorensTD124では、DECCA、逆相、第4時定数Highで聴いていきます。

EMI盤のThorensTD124では、ディテールの再現にはやや難がありますが、おおらかで豊かな響きのある再生です。

LINN LP-12では、爽やかで柔らかい響きのある表現です。

Garad401 では、大づかみで力強く厚みのある音です。

LONDON 盤の ThorensTD124 では、歯切れよく華やかで響きも豊かな音です。

LINN LP-12 では、繊細で柔らかい響きのある表現です。

Garad401 では、力強い響きで厚みのある音です。

4. まとめ

ThorensTD124 と Grrad401 の再生経路を変更した結果も、3機種3様の再生パフォーマンスが確認できましたが、響きの豊かさ、繊細で柔らかい音、強く厚みのある音など、それぞれの特徴が出ています。

以上